秋田北鷹高の「探究活動」

自殺対策 生徒の視点で

地域課題と捉え通年で研究

北秋田市の秋田北鷹高校（青山仁校長）で、「地域課題解決のための探究活動」の一環として、年間を通して自殺対策を考える学習が行われている。このテーマに関心のある生徒たちがアンケートや聞き取り調査を行ったり、地元で自殺対策を担う人たちに取材したりした結果を、年1回の発表会で紹介。悩みや不安を一人で抱えず相談することの大切さを自ら学ぶとともに、他の生徒や周辺住民にも発信している。生きづらさを感じずに暮らせる地域づくりに貢献すべく、探究活動に励んでいる。

支え合う「いのち」
ストップ自殺

秋田北鷹高校は2019年度から、学校設定科目である「課題研究」で、地域課題を取り上げている。普通科2、3年生が、北秋田市職員の講話などを参考に設定された「自殺対策」「移住定住」「ごみ対策」「防災減災」の四つから関心あるテーマを一つ選び、数人の班ごとに週1回、課題研究の授業の中で調査や考察に取り組んでいる。身近な問題が、国連の提唱するSDGs（持続可能な開発目標）と結び付いていることも学んでいる。

昨年12月には集大成となる「校内課題研究発表会」が開かれ、会場の体育館には班ごとに作った大きなポスターがずらりと並んだ。発表は学年別に行われ、各班はそれぞれのポスターの前で、研究を通じて気付いたことなどを紹介。他の学年の生徒や教職員、活動に協力した市職員らが、興味のある発表を選んで耳を傾けた。

20年度に自殺対策をテーマとして探究活動に取り組んだのは、2年生が8班で計37人、3年生が5班で合わせて22人。各班は「誰も追い込まないような社会を目指して」「無意識に傷つけていませんか～見えないSOSに気付くには～」「広げよう！ 相談機関」などのタイトルで、それぞれの研究内容を紹介した。

例えば3年生の班の一つは、うつ状態の人は自殺リスクが高いことに着目し、「うつ予防が自殺予防～地域の人の現状を把握する～」のタイトルで探究活動を展開。その一環として学校周辺の約40世帯を訪ね、うつに関して知っていることなどを聞き取り、症状の例や相談機関を紹介する「お便り」を配って回った。

生徒たちは1週間後にも同じ世帯を訪問。最初の聞き取りで、うつ状態になった場合に頼れる相談機関や医療機関があるか尋ねたところ、「ある」とした回答者の割合は2割だったが、2度目の訪問時にあらためて聞いた際には過半数になったという。一部の世帯にとって、生徒たちの訪問が、うつに関する理解を深めるきっかけとなったことが示された。

他の班も、商業施設に出向いて買い物客らにインタビューしたり、校内アンケートを行ったり、市が招いた大学の研究者の講話を聞いたりしてまとめた研究成果を披露。聴衆の生徒たちはカードに感想を記し、ポスターに貼った。カードには「自分も命を大切にしたい。（悩んでいる人の）相談にも乗ってあげたい」「高校生としてできることをもっと考えたい」などの感想がつづられていた。

現在の3年生は昨冬、県が育成している「心はればれゲートキーパー」の養成講座に参加。ゲートキーパーとは身近な人の悩みに気付き、声を掛け必要な支援につなげてもらう役割だ。現在の2年生も来月、この講座に参加する予定で、生徒たちは自殺対策を「考える」だけでなく、実践に向けた心構えも身に付けようとしている。

探究活動推進部の柴田創一郎教諭は「各班は（自殺対策について）多様な切り口で調査と考察をしていて、一定の成果を上げてくれました」と評価。「校外に出て地域の実情を学ぶなどした経験をもとに、高校生の視点から対策を考えてくれています」と目を細めた。アンケート結果などはアーカイブとして保存し、21年度以降の探究活動にも活用するという。

自殺対策の探究活動に協力してきた市医療健康課保健師の近藤智里さんは「週1回の班活動で、模索しながら自殺対策に向き合う姿は頼もしい」と称賛。市としても子どもがSOSを発信したり、受け止めたりできるような施策を進めるといい、「自分を大事にし、友達の様子の変化に声掛けのできる人になってほしい」と願っている。

自殺対策について1年間研究した成果を発表する秋田北鷹高の生徒たち＝昨年12月

生徒たちは大学の研究者から自殺の実態に関する講話を聞き、理解を深めた＝昨年10月

校内発表会を終えて

近藤愛羽（いとは）さん（3年）「相談機関発信計画～若い世代に広めよう～」と題して研究をしてきました。アンケートなどを通して、悩みを抱え込んでしまうことは良くないとあらためて感じました。地元にも相談機関があり、頼れる人がいることを発信し、将来的にも自殺という課題に向き合っていきたいと思っています。

金野羽海（うみ）さん（2年）「高齢者の『生きがい』に関する研究」というタイトルで研究成果を発表しました。僕は看護師志望で、秋田県で高齢者の自殺が多いことを重く受け止めています。僕たちがこの課題について考えることで減少につなげられたらいいと思っていて、この研究にやりがいを感じています。

いのちを守り いのちを支える

自殺は、個人の問題ではありません。社会が正面から取り組み、
地域で解決しなければならない問題です。
私たちは、一人でも多くのいのちを守るために本企画に協賛しています。

秋田朝日放送 株式会社	秋田回生会病院	秋田活版印刷 株式会社
秋田カントリー倶楽部	秋田協同印刷 株式会社	株式会社 秋田銀行
秋田県医師会	株式会社 秋田魁新報印刷	秋田さきがけ友の会
秋田新聞輸送	秋田信用金庫	株式会社 秋田ステージ
秋田ゼロックス 株式会社	秋田創価学会	秋田椿台カントリークラブ
秋田テレビ 株式会社	秋田ビューホテル	秋田ブランチ会
株式会社 秋田放送	株式会社 アテック	株式会社 エフエム秋田
医療法人 久幸会 今村病院・たかのす今村クリニック	医療法人 久盛会 秋田緑ヶ丘病院	KDDI 株式会社
社会医療法人 興生会 横手興生病院	株式会社 サキガケ・アド・ブレーン	株式会社 さきがけ折込センター
株式会社 さきがけサービス	株式会社 さきがけプラスA	医療法人 仁恵会
特定医療法人 仁政会 杉山病院・サンクリニック	医療法人 正和会 五十嵐記念病院	ダイドードリンコ 株式会社
タプロス 株式会社	DICグラフィックス 株式会社	東京電装工業 株式会社
東北醤油 株式会社	ユナイテッド計画 株式会社	立正佼成会秋田教会
有限会社 ロックオン		

（五十音順）

この広告は秋田魁新報社の『いのちを守り、いのちを支える』キャンペーンの一環として掲載しております。

企画・制作／秋田魁新報社営業局